

長崎まちづくりのグランドデザイン

第二回 検討委員会

目指すまちの状態と取り組みの考え方・課題

令和6年11月22日
長崎市まちづくり部



- 1 第一回検討委員会の振り返り
- 2 目指すまちの状態(※たたき台)
- 3 目指すまちの状態を導き出すプロセス
- 4 長崎市の現状(※人流データを除く)
- 5 目指すまちの状態に向けた取り組みの考え方(※たたき台)
- 6 目指すまちの状態に向けた課題(※たたき台)
- 7 今後のスケジュール

令和6年7月26日

第1回委員会

<主な議題>

- グランドデザインの概要
- 検討の進め方

令和6年11月22日(本日)

第2回委員会

<主な議題>

- 目指すまちの状態
(※たたき台)
- 長崎市の現状(※人流データ除く)
- 取り組みの考え方、課題
(※たたき台)

令和7年1月頃(次回)

第3回委員会

<主な議題>

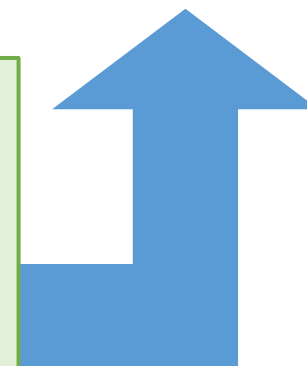
- 目指すまちの状態(案)
- 長崎市の現状(人流データ含む)
- 問題点の抽出(案)
- 課題設定(案)

【意見交換会】

- 地域(中央、東部、北部、南部)、若い世代・女性との意見交換会を実施
- ワークショップ形式で、将来どのようなまちになってほしいか、そのためにどのような取り組みが必要かなどについて議論

【ホームページでの意見募集】

- 将来どのようなまちになってほしいかなどについて意見募集



1 第一回検討委員会の振り返り

- (1) グランドデザインの目的
- (2) 重点テーマ
- (3) 検討の流れ
- (4) 主なご意見に対する考え方

2 目指すまちの状態(※たたき台)

3 目指すまちの状態を導き出すプロセス

4 長崎市の現状(※人流データを除く)

5 目指すまちの状態に向けた取り組みの考え方(※たたき台)

6 目指すまちの状態に向けた課題(※たたき台)

7 今後のスケジュール

(1) グランドデザインの目的

まちづくりの観点から、「経済再生」と「定住人口増加」を後押しする。

＜経済再生と定住人口増加に向けたまちづくりの考え方＞

「経済再生」

経済再生に向け、まちづくりに求められることは…

- 新たなまちの基盤から生まれる効果を市全体に波及させるとともに、一人一人の活動量を増加させることで、まちの活力が維持・発展していること。
- 人や企業を呼び込み、民間の消費や投資を喚起する魅力あるまちであること。など

「定住人口増加」

定住人口増加に向け、まちづくりに求められることは…

- 住みたいと思う魅力があるまちであること。
- 質の高い暮らしができ、多様な住まいの選択肢が確保されていること。
- 公共交通を利用して必要なサービスを享受できること。など

訪れたくなる、回遊・滞在したくなる、住みたくなるまちとなるよう、まちの価値や暮らしやすさ高めるとともに、新たなまちの基盤から生まれる効果を市全体に波及させ、誰もがその価値や暮らしやすさ、効果を享受できるよう、ネットワークを強化すること。

集約連携型の都市構造(コンパクト・プラス・ネットワーク)

(2) 重点テーマ

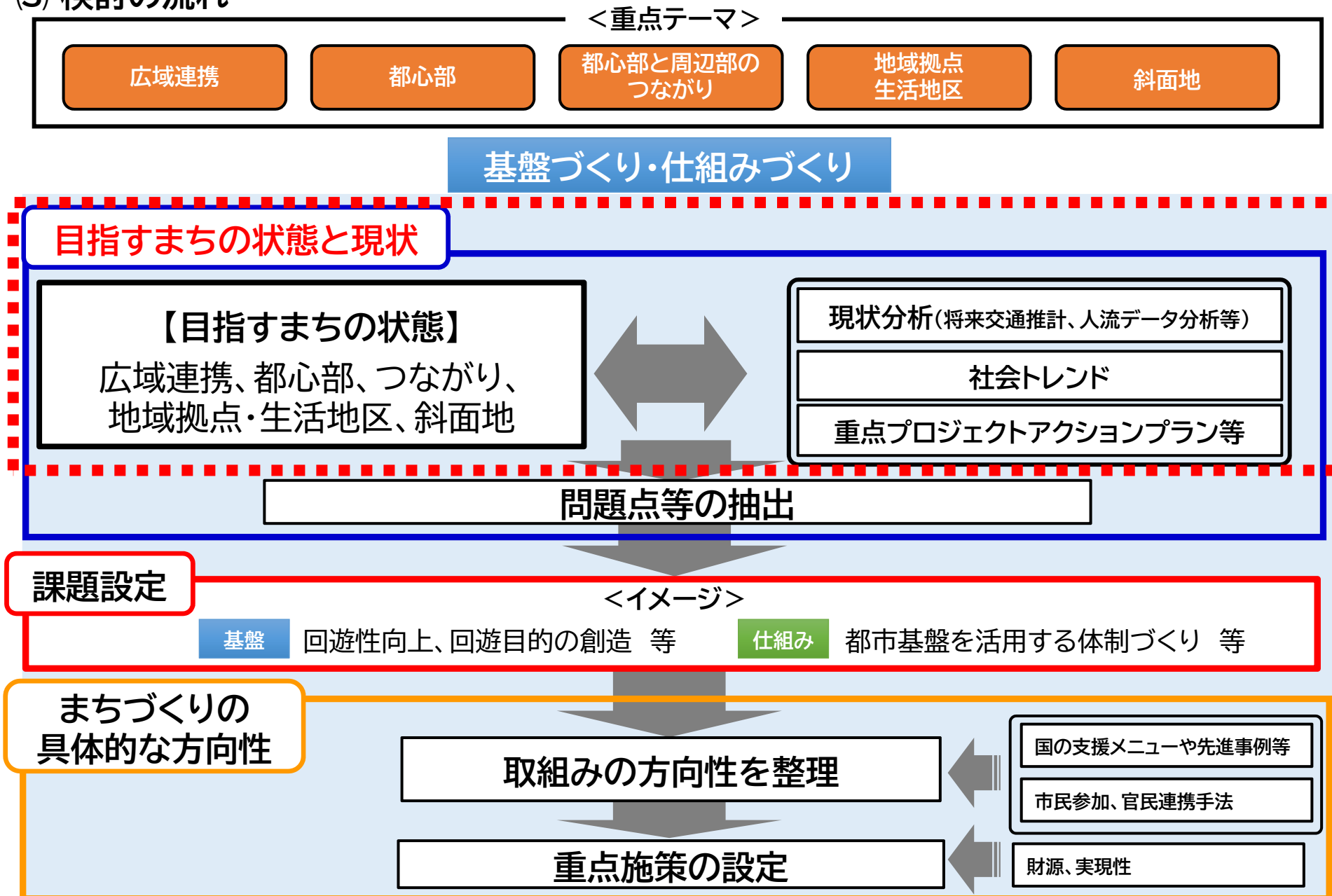




1 第一回検討委員会の振り返り

6

(3) 検討の流れ





(4) 主なご意見に対する考え方

●人口減少のスピードに対応した取り組み展開が必要

⇒リーディングプロジェクト等を短期的に進めるなど、ステップを踏みながら施策展開したい

●取り組みの方向性は、優先順位を付け、先行事例の課題感を踏まえて検討してほしい

⇒成功事例だけでなく、失敗事例や課題感等も踏まえつつ検討したい

●まちなかに交流人口を波及するためには、大規模集客施設などとは違う魅力をつくっていくことがポイントで、若い人や新しい人を育て、文化施策と産業施策を一緒に取り組んでいくことなどが必要

⇒出来上がっている基盤等を積極的に民間の方々に使っていただくための仕組みづくり等について早急に取り組みたい

●委員の方々にしっかりと長崎の現状を把握していただくことが大事

⇒長崎市の現状がしっかりと把握できる資料作りに努める

(4) 主なご意見に対する考え方

- 長崎ならではの魅力をいかに守り育てていくかという視点が欠けている

⇒人・企業を呼び込むためには重要な視点であるため整理の仕方を検討する

- 長崎に住む価値を見出せるよう、長崎で何が提供できるかといった視点を持ちつつ検討し、良いアナウンスができるとうい

- 長崎市が周辺の都市圏も含め、どのような機能やライフスタイルを提供できるのかを考えつつ議論できれば良い

⇒長崎に魅力を感じてもらい、長崎でどういう暮らしができるか等を見せることで、良いアナウンスができるよう努めたい

1 第一回検討委員会の振り返り

2 目指すまちの状態(※たたき台)

3 目指すまちの状態を導き出すプロセス

- (1) 目指すまちの状態の導き出し方
- (2) 将来の過ごし方のイメージ
- (3) 過ごし方を実現したまちの状態
- (4) 目指すまちの状態【再掲】

4 長崎市の現状(※人流データを除く)

5 目指すまちの状態に向けた取り組みの考え方(※たたき台)

6 目指すまちの状態に向けた課題(※たたき台)

7 今後のスケジュール

【本日の論点】

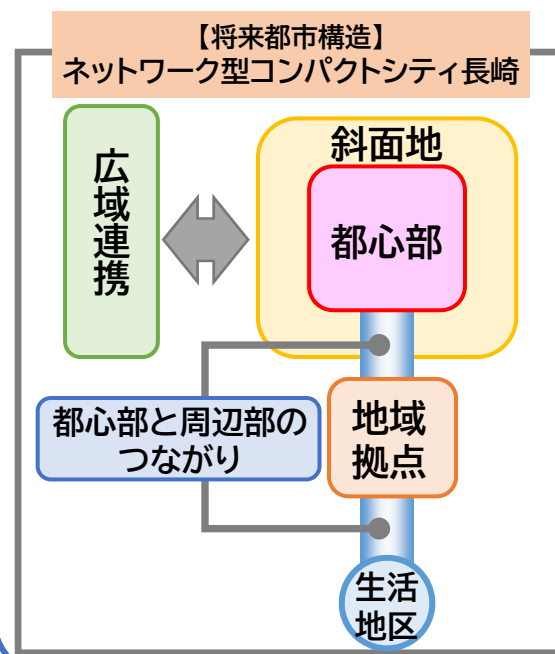
1. 長崎市が経済再生と定住人口増加を実現していくうえで、どのようなまちの状態を目指していくべきか
2. 今後、どのような点を重視してまちづくりに取り組んでいくべきか

<経済再生・定住人口増加に向けたまちづくりの考え方>

訪れたくなる、回遊・滞在したくなる、住みたくなるまちとなるよう、まちの価値や暮らしやすさ高めるとともに、誰もがその価値や暮らしやすさ、効果を楽しむことができるよう、ネットワークを強化すること。

<目指すまちの状態>

多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし方や過ごし方(ライフスタイル・ビジネススタイル)を選択できる



- まちなか・海・山・斜面地暮らしなど、思い思いにライフスタイルを選ぶことができる
- 歴史・文化や国際性、スポーツなど、長崎独自の多様な魅力があり、様々な人々が訪れ、交流できる
- 天然のコンパクトシティと称され、多様な魅力や都市機能がコンパクトに集まり、各拠点がネットワークでつながり、どこに住んでも、これらを楽しむことができる

1 第一回検討委員会の振り返り

2 目指すまちの状態(※たたき台)

3 目指すまちの状態を導き出すプロセス

- (1) 目指すまちの状態の導き出し方
- (2) 将来の過ごし方のイメージ
- (3) 過ごし方を実現したまちの状態
- (4) 目指すまちの状態【再掲】

4 長崎市の現状(※人流データを除く)

5 目指すまちの状態に向けた取り組みの考え方(※たたき台)

6 目指すまちの状態に向けた課題(※たたき台)

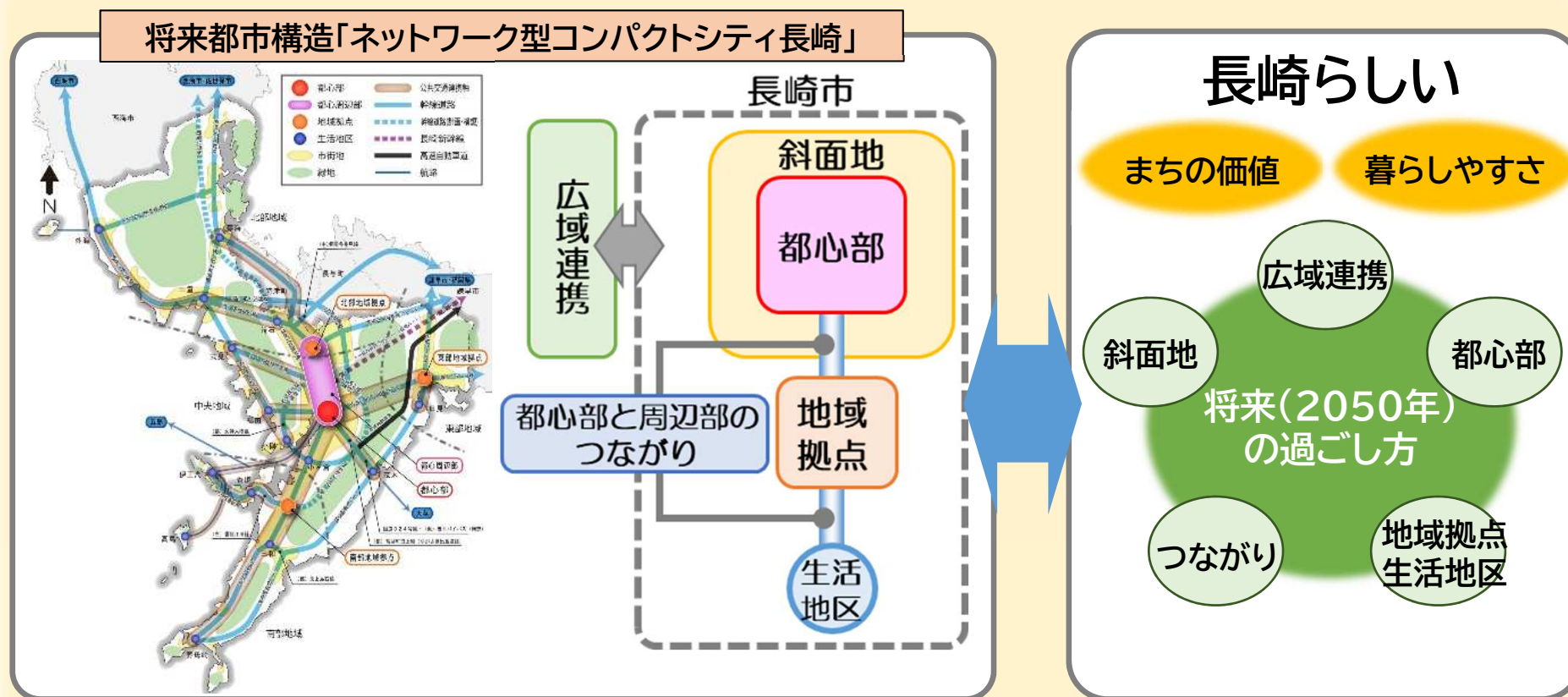
7 今後のスケジュール

(1) 目指すまちの状態の導き出し方

＜経済再生・定住人口増加に向けたまちづくりの考え方＞

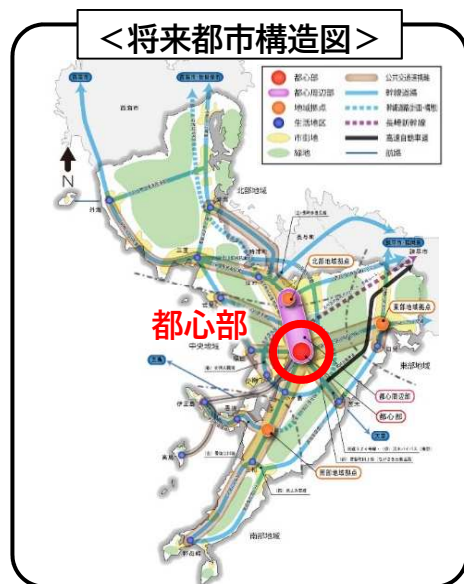
訪れたくなる、回遊・滞在したくなる、住みたくなるまちとなるよう、まちの価値や暮らしやすさ高めるとともに、誰もがその価値や暮らしやすさ、効果を楽しむことができるよう、ネットワークを強化すること。

こういった過ごし方ができるまちか



長崎らしい過ごし方を実現したまちの状態 → **目指すまちの状態**

(2) 将来の過ごし方のイメージ



【都心部の現状】



- 陸・海の玄関口があり、高いレベルの商業・業務・行政・福祉などの都市機能が集積し、市全体をけん引する役割を担う地域
- 長崎市の沿革・歴史を代表する地域で多くの文化遺産が存在する観光拠点
- 西九州新幹線、長崎スタジアムシティの開業や長崎駅周辺再整備、松が枝国際観光船埠頭の2バース化など、100年に一度のまちづくりが進行中

(2) 将来の過ごし方のイメージ（都心部）

住む

市民

- 様々な都市機能がコンパクトに集まり、生活のすぐとなりで、国際性や歴史・文化、スポーツといった**エリアごとに異なる魅力や都市の便利さを感じながら暮らしています。**



(出典) 全て長崎市観光公式サイトtravel nagasaki

訪れる・移動する

市民

来訪者

- 駅や港、スタジアムシティなどから、公共交通やパーソナルモビリティなどに**ストレスなく乗り換え**ています。
- 車を気にすることなく、木陰の下で、**安全・安心、快適に移動**しています。
- 沿道にオープンスペースがあったり、ガラス張りで長崎を感じる商品が見えるなど、沿道の**賑わいやまちなみを感じながら楽しく移動**しています。



(出典) 国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」



出典: 福山本通り商店街さんぽHP



(出典) 大阪市「御堂筋デザインガイドライン」

活動する

市民

来訪者

- 歩道や公園・広場などで仕事をしたり、音楽を聴いたり、絵を描いたり**多様なニーズに対応した空間で思い思いに**過ごしています。



(出典) 国土交通省「ほこみちのとりくみ」



(出典) 福山市HP

市民

- 長崎独自の歴史や文化、食、工芸などを活かし、公共空間などで**新しい価値や産業を生み出す活動**に活発に取り組んでいます。



(出典) 横浜市「横浜の都市デザイン」



(出典) 丹波篠山・まちなみアートフェスティバルHP

交流する

市民

来訪者

- 道路や公園・広場、オープンスペースなどがイベントや表現、チャレンジの場など多様な用途で活用され、**日常的に出会いや交流**が生まれ、**人々をひきつけています。**
- 様々なスモールビジネスが集まり、**ビジネス間の交流が活発**に行われています。



出典: みやまぐちそとあるきFacebook

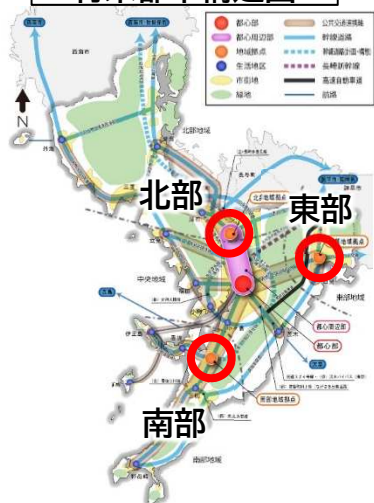


(出典) for Good「魚ん町+ (ココト合同会社)」

(2) 将来の過ごし方のイメージ

【地域拠点の現状】

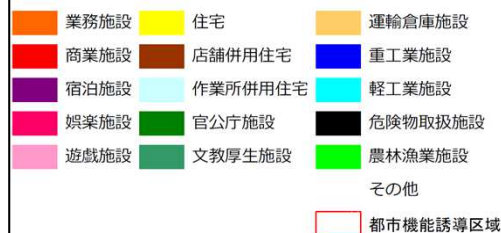
<将来都市構造図>



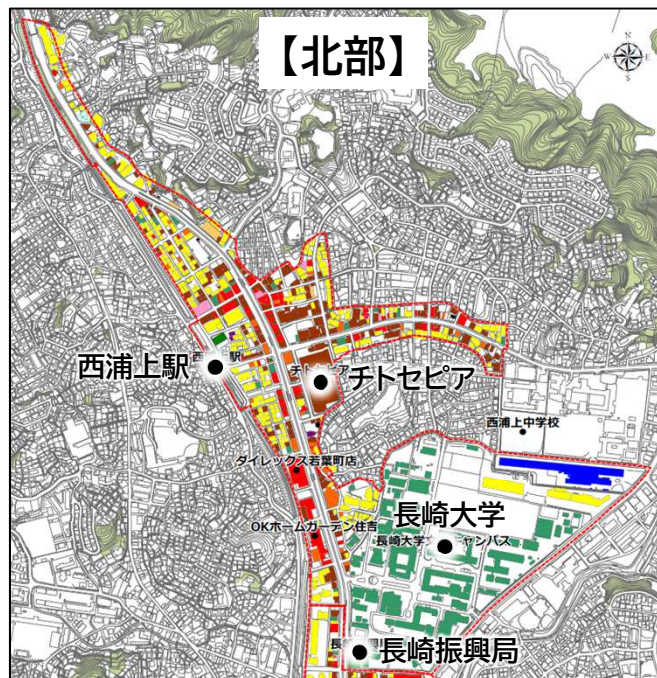
- 本市の北部、東部、南部地域の拠点で、将来的にも都心部や都心周辺部を補完するサービスを担う地域

<各地域拠点の都市機能集積状況(令和3年時点)>

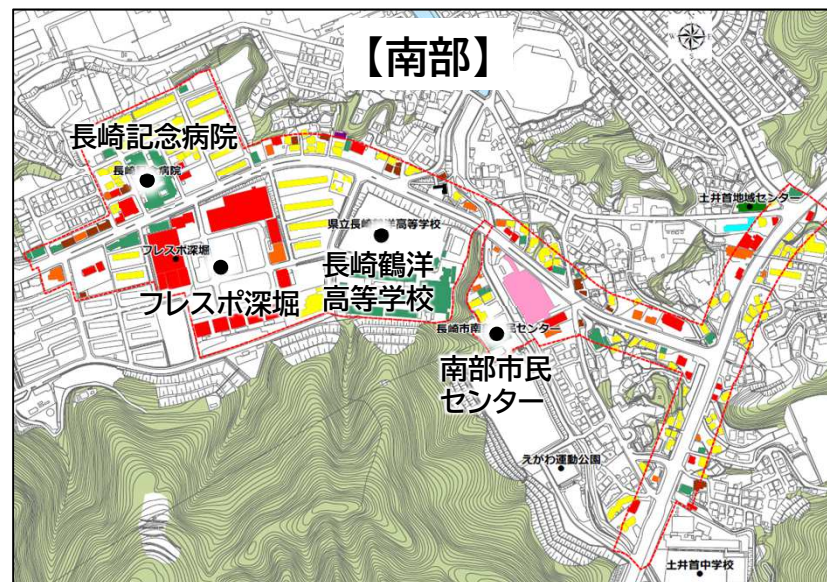
凡例



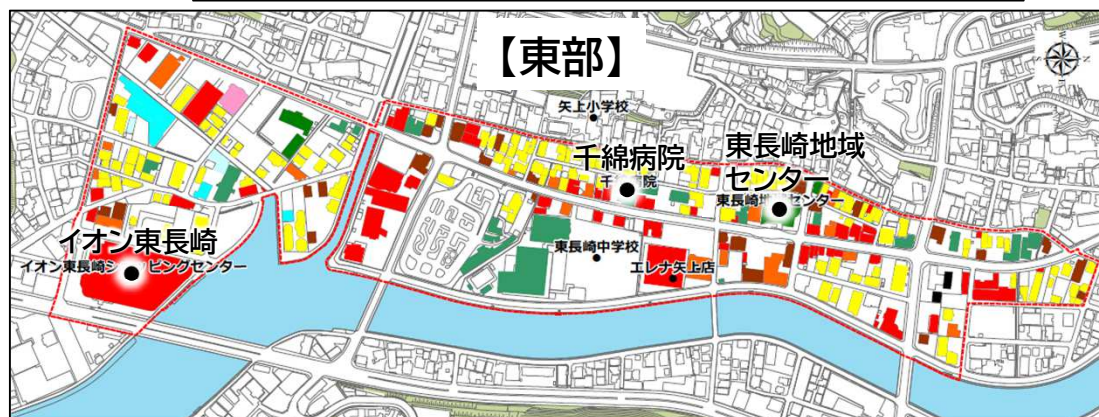
【北部】



【南部】



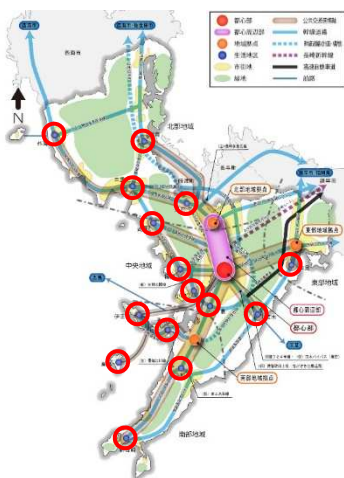
【東部】



(2) 将来の過ごし方のイメージ

【生活地区の現状】

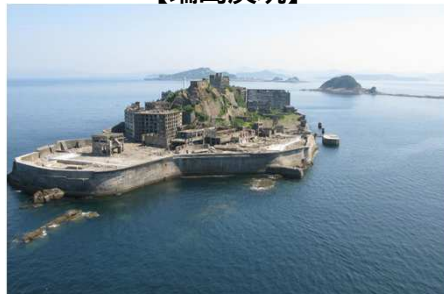
<将来都市構造図>



- 合併前の旧町村で、地域コミュニティの中心となり、将来的にも公共交通により都心部や地域拠点との連携を図る地区
- 豊かな自然環境に恵まれた地区が多く、世界遺産構成資産が点在する地区もある

世界遺産構成資産の一部

【端島炭坑】



【外海の出津集落】



【高島炭坑】



【大野教会堂(外海の大野集落内)】



生活地区の自然環境の一例



(出典) 全て長崎市観光公式サイトtravel nagasaki

(2) 将来の過ごし方のイメージ(地域拠点・生活地区)

地域拠点

訪れる・移動する

市民

- 生活地区から、だれもが公共交通などで快適に訪れ、都心部や近隣市町にもストレスなく乗り換えて移動しています。



(出典)国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

活動する

市民

- 地域の魅力を感じながら、病院や買い物など、日常生活に必要な用事を済ませています。
- 歩道や公園・広場などで仕事をしたり、音楽を聴いたり、絵を描いたりと多様なニーズに対応した空間で思い思いに過ごしています。



(出典)国土交通省「ほこみちのとりくみ」

交流する

市民

- 道路や公園・広場、オープンスペースなどがイベントや表現、チャレンジの場など多様な用途で活用され、日常的に出会いや交流が生まれ、人々をひきつけています。



(出典)新・公民連携最前線(写真:日経BP総研)

生活地区

住む

市民

- 地区ごとに多様な暮らしやすさ・魅力があり、各世代が好みに合う場所・住まいで地区の魅力を感じ暮らしています。
- 子ども達の遊び場が充実し、自然などを感じのびのびと育っています。また、若い世代がアウトドアなどを満喫し、毎日を楽しみ暮らしています。



(出典)長崎市HP

来訪者

- 二地域居住者が、豊かな自然といった地区の魅力を感じ暮らしています。



(出典)長崎市南部地区情報誌「Shine! +」

訪れる・移動する

市民

- だれもが容易に外出し、地区内を快適に移動しています。



来訪者

(出典)国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

- 来訪者が豊かな自然など地区の魅力を感じ移動しています。

交流する

市民

- 多様な世代の交流が日常的に生まれています。

活動する

市民

- 住まいの身近な場所で買い物や病院などの用事を済ませたり、働いたり子育てし、家族との時間を大切に過ごしています。



(出典)文部科学省「廃校活用事例集」

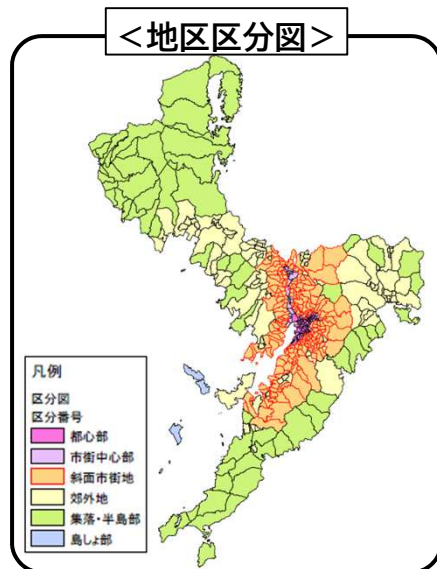
- 地区の資源や魅力を活かした新たな価値を生み出す取組みが行われています。

来訪者

- 空き家が宿泊施設や働く場として活用されるなど、観光客やビジネスマンが地区の魅力を感じて過ごしています。

(2) 将来の過ごし方のイメージ

【斜面地の現状】



- 既成市街地の約7割を占め、坂のまちながさを象徴するエリア
- 眺望や日当たりの良さ、静謐さといった斜面市ならではの魅力がある

<斜面市街地の一例>



(出典)長崎市資料

<斜面地からの眺望>



(出典)長崎市移住・定住応援公式サイト

<斜面地の空き地を活用した取り組み>



(出典)長崎市都市景観賞作品集(さかのうえん)

(2) 将来の過ごし方のイメージ（斜面地）

住む

市民

来訪者

- 様々な世代や二地域居住者が眺望や日当たりの良さなど、斜面地の魅力を感じながら好みに合う場所や住まいでゆとりある暮らしをおくっています。



（出典）長崎市移住・定住応援公式サイト



（出典）長崎市移住・定住応援公式サイト

- 空き地などのオープンスペースで、斜面地からの眺望といった魅力を感じながら、開放的な気分で遊んだりくつろいだりして、過ごしています。



（出典）長崎市資料

訪れる・移動する

市民

来訪者

- 市民や来訪者が移動の負担が少ない道や移動を支援するモビリティなどを活用し、大きな負担なく移動しています。



（出典）長崎市「車みち整備事業」



（出典）国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」



（出典）車椅子ロボットmovBot

活動する

市民

- 住まいの近くに移動販売車が来たり、地域住民との交流スペースがあるなど、土地を有効活用して斜面地に合った暮らしやすさが確保され、便利で快適に過ごしています。



（出典）国土交通省資料



（出典）国土交通省資料

市民

- 空き家がクリエイターの活動・創作の場など、多様な用途で活用され、新たな価値や産業を生み出す活動が行われています。

来訪者

- 空き家が宿泊施設や働く場として活用されるなど、観光客やビジネスマンが斜面地の魅力を感じて過ごしています。

交流する

市民

- 空き地をコミュニティガーデンとして活用されたり空き家がコミュニティの場となるなど、多様な世代交流が日常的に生まれています。



（出典）長崎市HP



（出典）長崎市HP（斜面地・空き家活用団体つくる）

(2) 将来の過ごし方のイメージ（広域連携、つながり、その他）

広域連携

訪れる

来訪者

- 西九州新幹線の全線フル規格が実現し、これまで以上に多くの来訪者が訪れています。



（出典）長崎市資料

住む・活動する

市民（市外勤務者）

隣接市町居住者

- 近隣市町で働く方が多く市内に居住し、平日は快適・スムーズに通勤し、休日は都心部で買い物やスポーツなどを楽しみながら過ごしています。
- 都心部の魅力を、多くの隣接市町居住者も感じ楽しんでます。

その他

その他

企業

- 新たな企業進出や基幹産業などの新分野へのチャレンジが進み、長崎市のこれまでのビジネスと新たなビジネス間の交流が進みオープンイノベーションが生まれています。
- 起業したいと考えている人たちが長崎市に興味を持っています。

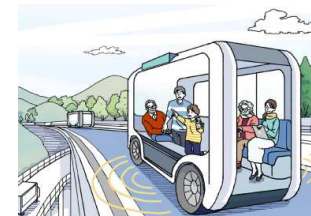
都心部と周辺部のつながり

訪れる・移動する

市民

来訪者

- 各拠点が道路や公共交通機関などでつながり、いつでもどこでも様々な移動手段で快適・スムーズに移動しています。
- 多くの来訪者が都心部周辺の観光施設だけでなく、周辺部の観光施設にも足をのばしています。

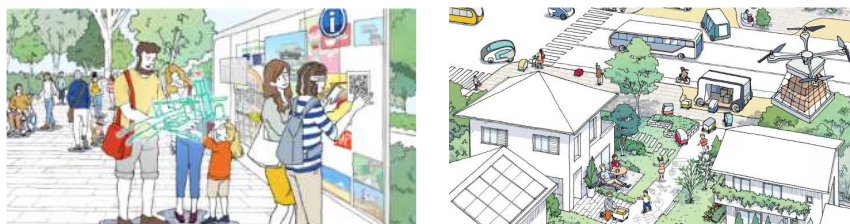


（出典）国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

(2) 将来の過ごし方のイメージ（共通）

市民 来訪者

- 自動運転や宅配ロボの運行、ドローン輸送、デジタルによるまち案内など、最新技術を様々な用途で活用し、だれもが便利で快適に過ごしています。



（出典）国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

市民 来訪者

- 公共交通機関同士はもちろん、様々な移動手段がシームレスにつながって移動手段を簡単に手配でき、便利で快適に来訪者が訪れたり、市民がまちを移動しています。



（出典）国土交通省資料

市民 来訪者

- 外出したくなる、訪れたくなる情報をいつでも簡単に入手でき、外出頻度やまちでの滞在時間が増えています。



（出典）国土交通省「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン」

- 様々な情報の収集と様々な主体の緊密な連携により、まちの課題や新たなニーズが発掘され、日々、暮らしやすさや魅力が進化し、益々、楽しく快適に過ごしています。



（出典）国土交通省「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン」



（出典）UDCイニシアチブ



3 目指すまちの状態を導き出すプロセス

23

(3) 過ごし方を実現したまちの状態

都心部

- 暮らしのとなりで、長崎独自の様々な魅力や都市の便利さを感じるまち
- 移動することが楽しく、思い思いに過ごせるまち
- 多様な人々や企業をひきつけて、日常的に出会いと交流が生まれるまち
- 新しい価値や産業を生み出すチャレンジが活発なまち

地域拠点

- 生活地区から訪れやすく、都心部、近隣市町ともつながる交通の要所となるまち
- 地域の魅力が溢れ、生活に必要なサービスが受けられるまち

生活地区

- 地区に合った多様な暮らしやすさと魅力があり、だれもが生き生きと自分らしく暮らせるまち
- 来訪者をひきつけ、豊かな自然など地区の魅力を存分に味わえるまち
- 地区の魅力を活かした新しい価値や産業を生み出すチャレンジが行われるまち

斜面地

- 都心部のとなりで斜面地の魅力を感じながら、ゆとりある暮らしを過ごせるまち
- 来訪者をひきつけ、斜面地の魅力を存分に味わえるまち
- 新たな価値や産業を生み出すチャレンジを行う人が集うまち

広域連携

- 来訪者が訪れやすいまち
- 市外勤務者や都市圏居住者もひきつけるまち

その他

- ビジネス間の交流が活発で、オープンイノベーションが生まれるまち
- 企業、起業家の興味をひきつけるまち

共通

- 最新技術で便利で快適なまち
- 日々、暮らしやすさや魅力が進化するまち

都心部と周辺部のつながり

- 各拠点がつながり、どこに住んでも、いつでもどこでも快適・スムーズに移動できるまち
- 来訪者が周辺部にも訪れやすいまち

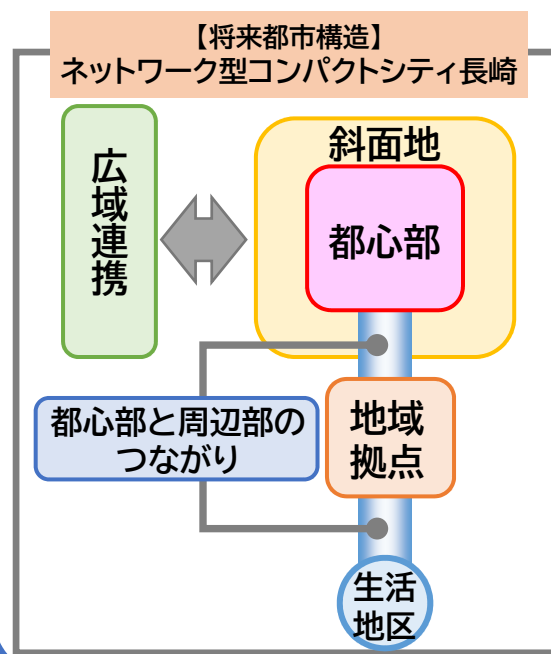
(4) 目指すまちの状態【再掲】

< 経済再生・定住人口増加に向けたまちづくりの考え方 >

訪れたくなる、回遊・滞在したくなる、住みたくなるまちとなるよう、まちの価値や暮らしやすさ高めるとともに、誰もがその価値や暮らしやすさ、効果を楽しむことができるよう、ネットワークを強化すること。

< 目指すまちの状態 >

多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし方や過ごし方(ライフスタイル・ビジネススタイル)を選択できる



- まちなか・海・山・斜面地暮らしなど、思い思いにライフスタイルを選ぶことができる
- 歴史・文化や国際性、スポーツなど、長崎独自の多様な魅力があり、様々な人々が訪れ、交流できる
- 天然のコンパクトシティと称され、多様な魅力や都市機能がコンパクトに集まり、各拠点がネットワークでつながり、どこに住んでも、これらを楽しむことができる

1 第一回検討委員会の振り返り

2 目指すまちの状態(※たたき台)

3 目指すまちの状態を導き出すプロセス

4 長崎市の現状(※人流データを除く)

- (1) 全体、(2) 都心部、(3) 地域拠点、(4) 生活地区、(5) 斜面地
- (6) 都心部と周辺部のつながり、(7) 広域連携
- (8) 今後の経済再生と定住人口増加に関わる主なまちづくりの動き

5 目指すまちの状態に向けた取り組みの考え方(※たたき台)

6 目指すまちの状態に向けた課題(※たたき台)

7 今後のスケジュール



4 長崎市の現状

26

(1) 全体

■ 平坦地が少ない地形的特徴などから「製造業」の割合が低い

- 幹線道路や都市機能が限られた平坦地に集積【別冊1ページ】
- 全国平均と比べ、第2次産業(製造業)の割合が低い(全国:16.2% 長崎市:9.3%(令和2年度))【別冊2ページ】
- 県全体総生産の約3分の1を占めているが、1人当たりの経済規模は高くない【別冊3ページ】

■ 県外への転出者は20～30代が多く、「仕事関係」が主な理由

- 令和元年から令和5年は、毎年1,500～3,000人程度の転出超過(主に東京圏や福岡)【別冊4、5ページ】
- 20代(39.2%)、30代(18.9%)※の転出が多く、「県内に希望する仕事がない」、「知識や技能を活かしたい」が主な転出理由 ※令和4年 【別冊6、7ページ】
- 就職を理由に転出した者の就業先業種(上位3位)【別冊7ページ】
男性:製造業24.7%、建設業10.3%、情報通信業9.4% 女性:医療業23.6%、福祉業10.7%、商品販売業9.9%

■ 県内への転出者は20～30代が多く、「居住環境」が主な理由

- 令和元年から令和5年は、毎年100～400人程度の転出超過(主に諫早・大村市)【別冊4、5ページ】
- 20代(31.4%)、30代(22.5%)※の転出が多く、「結婚・離婚のため」、「居住環境」が主な転出理由 ※令和4年 【別冊6、8ページ】
- 宅地取引価格は、近隣都市と比べ約3万円/m²高く、民営家賃は名古屋市よりも高い【別冊9ページ】
- 1戸建て住宅(持ち家)や民営借家(共同住宅)の延べ面積は、全国平均や近隣都市と比べ小さい【別冊9ページ】



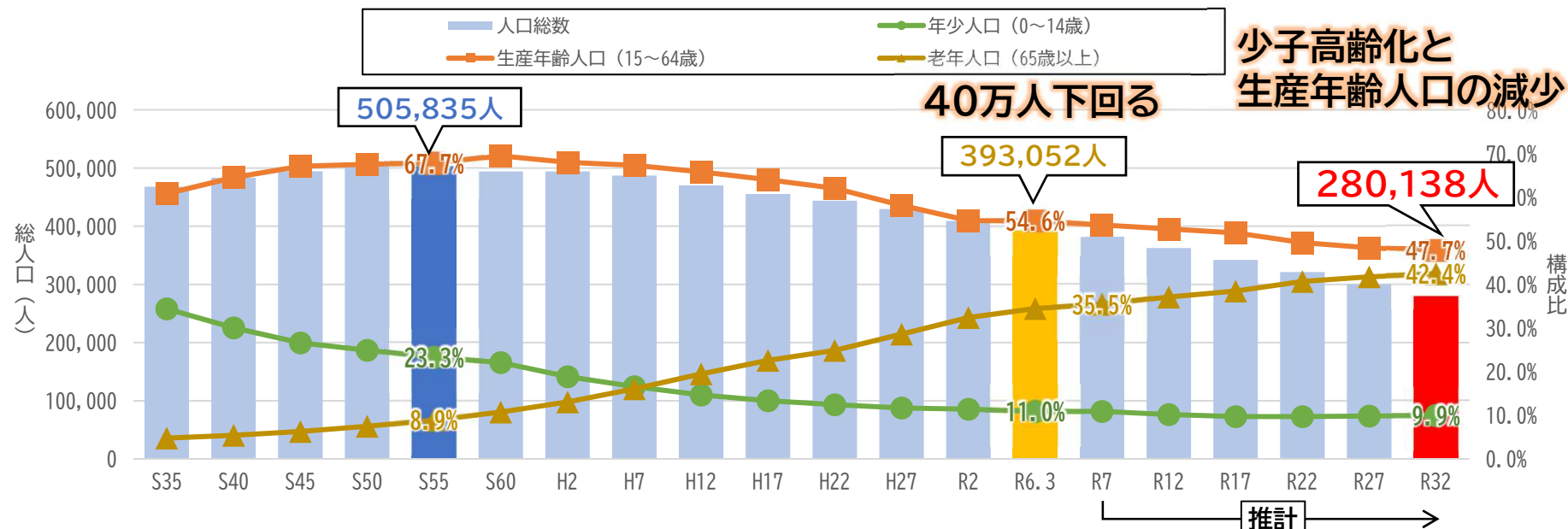
4 長崎市の現状

27

(1) 全体

【総人口(年齢3区分別)】

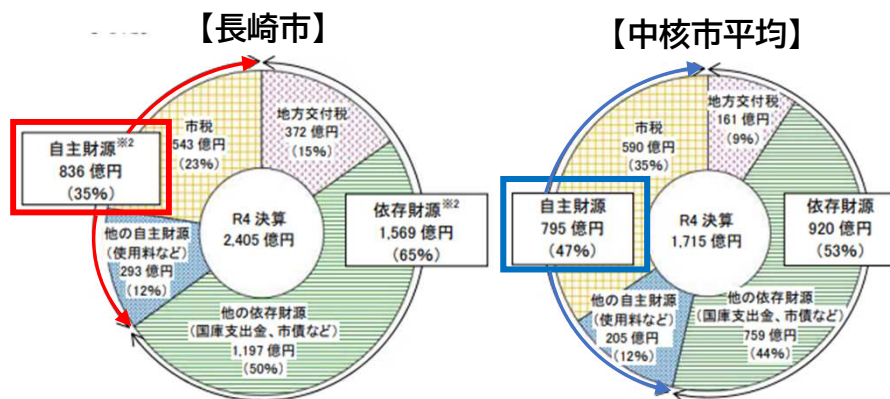
※市町村合併の旧町の人口を含む。



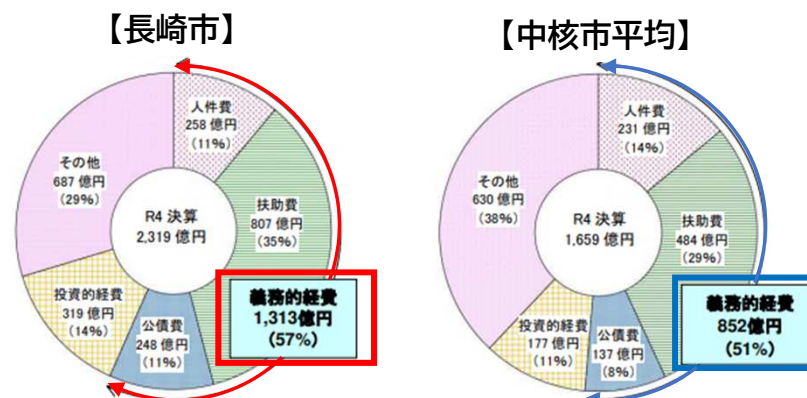
出典:国勢調査(R6.3は住民基本台帳)
、国立社会保障・人口問題研究所

【本市の財政状況】

<令和4年度普通会計決算における「収入」の内訳>



<令和4年度普通会計決算における「支出」の内訳>



出典:What's ZAISEI(長崎市)

(2) 都心部



- 都心部の人口は、平成27年まで増加傾向で、その後は横ばい

平成17年	平成27年	令和5年
約2.39万人	約2.89万人	約2.86万人

- 建物用途は、商業業務系から住居系への転換が進む

<約20年間で建設された建物用途別割合>【別冊10ページ】

住宅	店舗併用住宅	商業	業務	その他
約58%	約16%	約8%	約6%	約12%

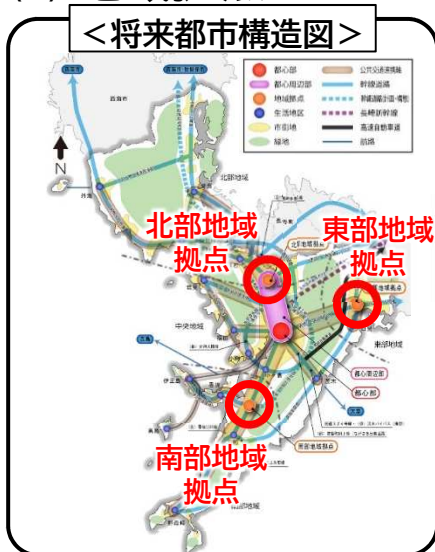
- 歩行者通行量は減少傾向が続き、空き店舗も増加、賑わいが減少している

- 歩行者通行量は、平成元年から減少しており、特に、まちなか(浜町)は休日の減少が目立つ【別冊11ページ】
- まちなかの空き店舗数は、コロナの影響もあり増加傾向にある【別冊12ページ】

- 低未利用地が小規模駐車場などに転換し、駐車場の散在が進んでいる

- 駐車台数10台未満の駐車場割合：H19年 46.4%⇒R2年 62.0%【別冊12ページ】

(3) 地域拠点



- 各拠点が属する地域の人口はいずれも減少傾向で、特に南部地域の減少傾向が強い

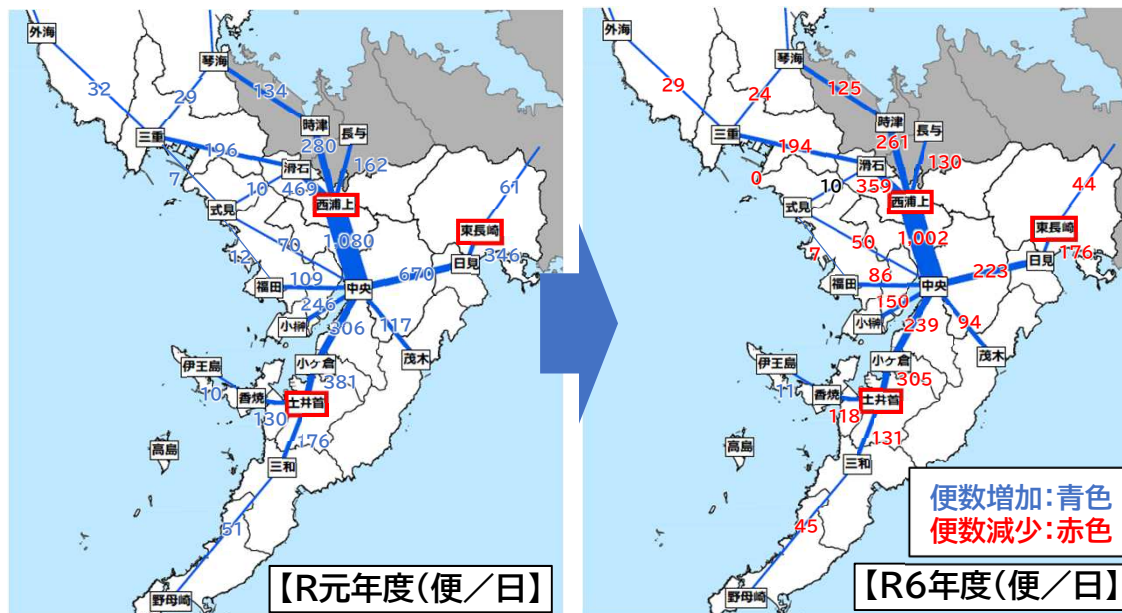
	北部	東部	南部
平成17年	約12.6万人	約4.6万人	約5.0万人
令和5年	約11.4万人	約4.4万人	約3.6万人
増減率	▲9.5%	▲4.3%	▲28.0%

- 各拠点内の生活サービスに関連する事業所は減少傾向

卸売業・小売業	北部	東部	南部
平成28年	298件	157件	74件
令和3年	238件	144件	64件
増減数	▲60件	▲13件	▲10件

宿泊業、飲食サービス業	北部	東部	南部
平成28年	173件	55件	24件
令和3年	143件	42件	20件
増減数	▲30件	▲13件	▲4件

- 主要地点間のバス運行便数は減少箇所が多い



＜住宅地開発により人口増加している地区＞

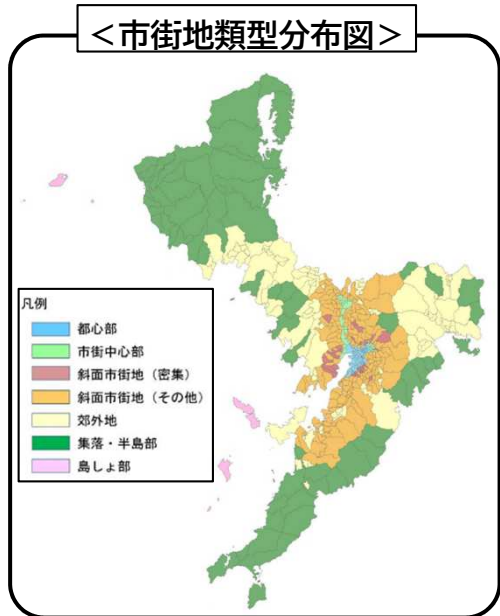


	高島	外海	式見	野母崎	茂木
平成17年	792人	5,106人	4,025人	7,166人	7,877人
令和5年	268人	3,036人	2,450人	4,434人	5,287人
増減率	▲66.2%	▲40.5%	▲39.1%	▲38.1%	▲32.9%

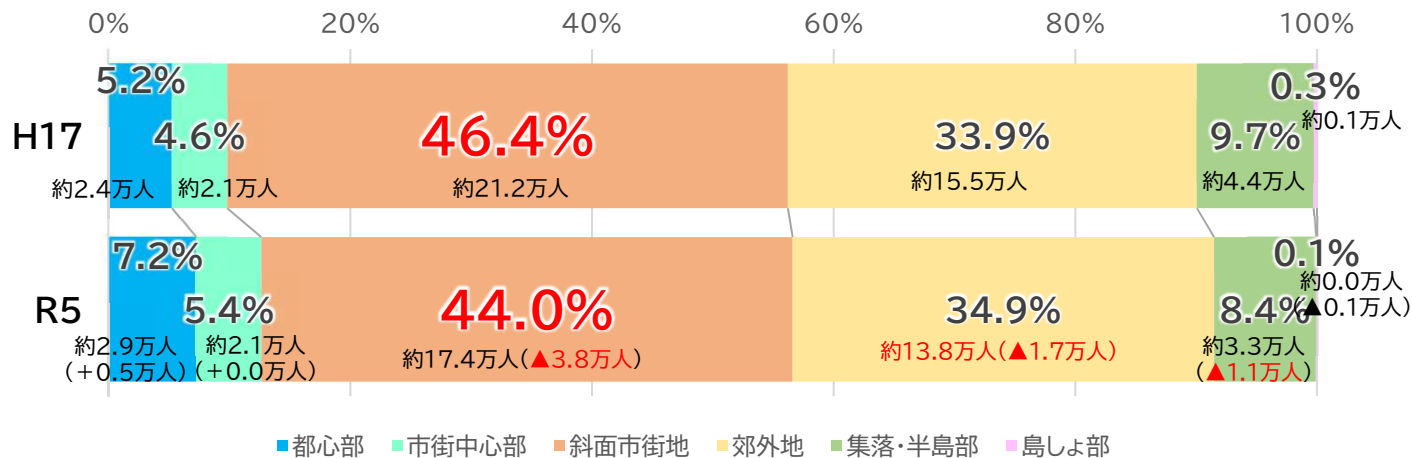
- 住宅総数に占める空き家の割合は増加傾向【別冊13ページ】
(H15:約34.0%⇒R5:約44.4%)
- 空き家のうち、活用目的がない空き家(その他の住宅)も増加傾向【別冊13ページ】
(H15:約13.7%⇒R5:約17.9%)
- 空き家発生率は島しょ部(伊王島・高島)が25.4%※と最も高い【別冊13ページ】

(5) 斜面地

■ 本市人口の約4割(約17.4万人)が居住するエリア



<市街地類型別の人口比率(令和5年)>



※市街地類型分布図は、長崎市空家等対策計画から引用

■ 多くの高齢者世帯が居住

- 高齢者世帯※の**約47%が斜面市街地**に居住【別冊14ページ】

※65歳以上の単独世帯、夫65歳以上・妻60歳以上の夫婦のみ世帯の合計

■ 建物数は減少し、空き地の増加が想定

<斜面市街地内の建物件数>

	平成26年	令和3年	増減数
建物件数	約6.9万件	約6.5万件	▲0.4万件

■ 空き家の約6割は斜面地に存在

- 空き家の**約60%(4,127件)※**は斜面市街地に存在。※斜面市街地(密集)と斜面市街地(その他)の合計【別冊13ページ】

(6) 都心部と周辺部のつながり

■ 公共交通の利便性が高く、通勤・通学で路線バスを利用する割合が高い。

- 公共交通の徒歩圏カバー率は80%※で、全国や政令市等の平均を上回っている
(全国平均:41%、政令市平均:74%) ※令和4年時点【別冊15ページ】
- 全国平均と比べ、通勤・通学時の路線バスの利用割合が高い
(全国平均6.3%、長崎市:23.9%(令和2年時点))【別冊15ページ】

■ 利用者は減少傾向で、減便や路線廃止が続く。

- 年々、自家用車への依存割合が高くなっており、公共交通利用者は減少傾向【別冊16ページ】
- ポストコロナ後、利用者数は戻りつつあるが、コロナ禍前の利用水準には至っておらず、減便や路線廃止が続いている

■ 放射環状型幹線道路網の整備を進めているが、依然として渋滞箇所が多い

- 限られた平坦地に幹線道路が集中し、特に通勤・通学の時間帯の交通渋滞が慢性化
- 放射環状型幹線道路網の整備に取り組んできており、現在は、長崎南北幹線道路や長崎南環状線等の整備に取り組んでいる。【別冊17ページ】
- 幹線道路整備等に取り組んでいるが、依然として主要渋滞箇所が多い【別冊18ページ】

■ 市内全域で光回線が利用可能

- 令和4年4月から、市内全域で大容量高速のデータ通信が利用可能。

(7) 広域連携

■ 観光客はコロナ禍で減少、その後、コロナ前の状態に戻りつつある

- 観光客数は、平成29年に過去最高の708万人、クルーズ客船寄港数も過去最高の267隻を記録したが、コロナ禍により減少【別冊19ページ】
- その後、令和4年9月の西九州新幹線開業やポストコロナを迎え、交流人口が戻りつつある

■ 諫早市への半導体関連産業の集積

- 近年、諫早市ではソニーグループや京セラなど半導体関連産業が集積
- 新たな受け皿として新産業団地の整備も予定

■ 長崎市から諫早市への通勤者は増加傾向、昼夜間人口比率は減少傾向

<居住地・勤務地別通勤者数の推移>

	平成22年	令和2年	増減数
長崎市から諫早市への通勤者	5,608人	6,417人	+809人
諫早市から長崎市への通勤者	7,713人	7,496	▲217人
大村市から長崎市への通勤者	1,948人	2,450人	+502人

<昼夜間人口比率の推移>

※括弧内は、平成22年との比較

	長崎市全体	都心部
平成22年	103.2	260.6
平成27年	103.3 (▲0.1)	225.3 (▲35.3)
令和2年	102.5 (▲0.7)	232.5 (▲28.1)

(8) 今後の経済再生と定住人口増加に関わる主なまちづくりの動き



- 1 第一回検討委員会の振り返り
- 2 目指すまちの状態(※たたき台)
- 3 目指すまちの状態を導き出すプロセス
- 4 長崎市の現状(※人流データを除く)
- 5 目指すまちの状態に向けた取り組みの考え方(※たたき台)**
- 6 目指すまちの状態に向けた課題(※たたき台)**
- 7 今後のスケジュール**

<目指すまちの状態>

多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし方や過ごし方(ライフスタイル・ビジネススタイル)を選択できる

<取り組みの考え方>

- 各エリアの魅力や価値を高めていくこと

長崎らしい暮らしやすさや賑わい・活力を維持していくため、各エリアの魅力や価値を生み出し、高めていく

- 仕組みづくりや規制緩和により、民間活力や既存ストックを最大限活用すること

100年の一度のまちづくりにより出来上がった基盤を最大限活かす仕組みや土地利用の規制緩和などにより、民間の活力を最大限引き出していく

- 歴史・文化や国際性、スポーツなど長崎独自の魅力や地域資源等を新たな魅力・産業につなげるなど、人、企業、投資を呼び込む価値の創造
- 生活サービス施設や公共交通の運行便数の減少が進む中における、地区ごとに合った暮らしやすさの確保
- 公共空間や空き地・空き家等の既存ストック活用による多様なライフスタイルの実現や産業・交流の活性化
- 道路等の基盤整備や近隣市町の産業立地動向等を踏まえた居住・産業機能を増進する土地利用の活性化
- 多様な主体の緊密な連携による、エリアマネジメントやまちづくり活動を担う人材の発掘・育成など、まちの課題解決に向けた仕組み(人・組織)の構築



7 今後のスケジュール

38

時期	内容	主な議題(予定)
令和6年 7月26日	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none">● グランドデザインの概要● 検討の進め方
10月～11月	意見交換会	—
11月22日 (本日)	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none">● 目指すまちの状態(※たたき台)● 取り組みの考え方、課題(※たたき台)
令和7年 1月頃	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none">● 目指すまちの状態(案)● 問題点(案)● 課題(案)
3月頃	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none">● まちづくりの具体的な方向性(案)● 素案(※たたき台)
7月頃	パブリックコメント	—
9月頃	第5回委員会	<ul style="list-style-type: none">● 原案
10月頃	策定・公表	—

※今後進捗状況により変更する可能性があります。

【本日の論点】

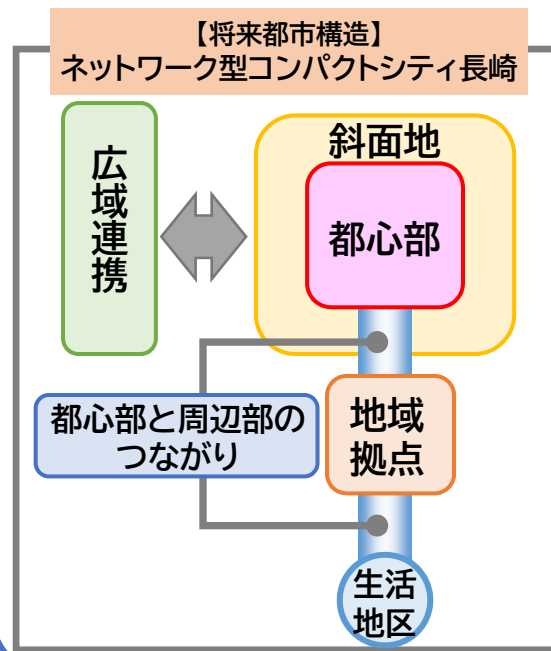
1. 長崎市が経済再生と定住人口増加を実現していくうえで、どのようなまちの状態を目指していくべきか(P23～24)
2. 今後、どのような点を重視してまちづくりに取り組んでいくべきか(P36～37)

<経済再生・定住人口増加に向けたまちづくりの考え方>

訪れたくなる、回遊・滞在したくなる、住みたくなるまちとなるよう、まちの価値や暮らしやすさ高めるとともに、誰もがその価値や暮らしやすさ、効果を楽しむことができるよう、ネットワークを強化すること。

<目指すまちの状態>

多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし方や過ごし方(ライフスタイル・ビジネススタイル)を選択できる



- まちなか・海・山・斜面地暮らしなど、思い思いにライフスタイルを選ぶことができる
- 歴史・文化や国際性、スポーツなど、長崎独自の多様な魅力があり、様々な人々が訪れ、交流できる
- 天然のコンパクトシティと称され、多様な魅力や都市機能がコンパクトに集まり、各拠点がネットワークでつながり、どこに住んでも、これらを楽しむことができる